ブロードウェイが反応した

　プロジェクト始動から数週間後の 1991 年6 月2 日、ブロードウェイのミンスコフシアターでは第45 回トニー賞の授賞式が開かれ、会場に 3000 本のレッドリボンが届けられました。出席者全員に着けてもらうためです。

　全員、ではなかったものの、プレゼンターの一人である俳優のジェレミー・アイアンズをはじめ、多くの舞台人がレッドリボンを着けました。翌日の新聞でそのことが報じられて知名度が一気に上がり、翌92 年のアカデミー賞授賞式でも多くのスターが着用しています。

　また、92 年 4 月 20 日のイースターマンデーには、ロンドンのウェンブリースタジアムでフレディ・マーキュリー追悼コンサートが開かれ、10 万本のリボンが配られました。レッドリボン運動は世界に広がり、日本でも当時、クイーンのファンの人たちが中心になってリボン作りと普及に取り組んでいます。

国連でライトアップ

　国連や各国政府もレッドリボンを重視しています。Visual AIDS のアーティストたちが普及を最優先に考え、著作権フリーとしたことがさまざまな活動を促しました。また、乳がんのピンクリボンなど、他の疾病や社会的課題のキャンペーンでも色違いのリボンが登場しました。

　国連合同エイズ計画（UNAIDS）もHIV/エイズに関係するスティグマや差別の解消を目指す国際的なシンボルとしてレッドリボンを活用しています。

　2001年 6 月 25-27日にはニューヨークで国連エイズ特別総会が開かれ、その前夜にマンハッタンの国連本部ビルの窓に赤いフィルムがリボン型に張り付けられ、夜空にレッドリボンが浮かび上がるライトアップで特別総会の意義を強調しました。

ネイルにレッドリボンを

　日本でも全国各地でレッドリボンを理解と連帯のシンボルとしたキャンペーンが実施されてきました。12 月1 日の世界エイズデーの前には毎年、厚労省主催のレッドリボンライブが開かれています。

　また、「ネイルにレッドリボンを」という日本発の素敵なキャンペーンもあります。ネイルアートに着目し、指先の爪に思い思いのレッドリボンを描き込むことで、「おや？」「これはね・・・」とコミュニケーションの輪が広がり、メッセージが指先から伝わることで、親密さも一段と増しています。

　もともとは民間企業のサンスター株式会社広報課でエイズ啓発に取り組んでいた女性が、ネイルアーティストの皆さんと協力して始め、その後、「シェア＝国際保健協力市民の会」がキャンペーンを引き継ぐなど、様々な人たちの手で指先のメッセージは広がっていきました。